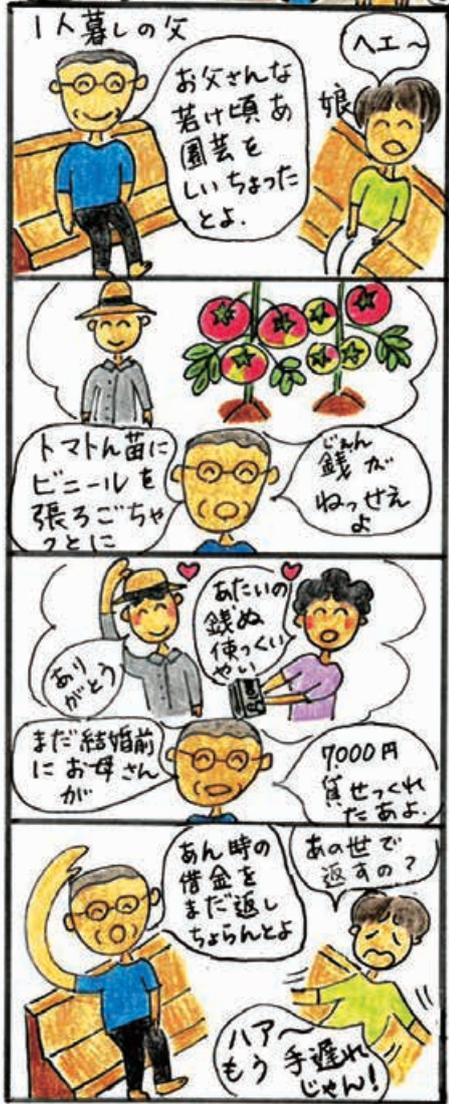


借金の父

314 借金



大崎短歌会

兼題 『天の川・七夕』

喜々として共に七夕飾りし孫

逝きて十四年切に逢いたし

生業を共に歩みて六十年

今もかわらず銀河またたく

幾千も星の輝き飽きもせず

時の過ぎたり傍に愛犬居り

七夕に彦星と織姫接近

年に一度の夏の夜の夢

どことなく淋しく回る灯籠や

今日は七夕早く帰り来よ

数多なる願ひ託せる七夕の

竹風そよぎ天の川渡らむ

穂園芳江

本後淑子

井元かず子

実吉安仁

坂元つる子

馬場みさ

天の川渡れば君に会えるかと

指でなぞりつ絵本読み終ゆ

六月の銀河鉄道仰ぎみる

若き娘逝きぬ「逢う、花に。」遺し

*1「逢う、花に。」2檀一雄著小説

山下海征

上南紀子

薩摩郷句

兼題 『てげてげ』

老人相手に 医者もてげてげ 加齢いしつ

(唱) カレーじゃ無どち 叫れじよい老人

二見愚楽満

田舎道 てげてげ聞たや 行つ着かじ

(唱) 解つた心算いで 聞いちよつたばつ

上窪小絵

容姿じゃ無ど てげてげで良ち 嫁女貰れ

(唱) 別嬪が良ち 決まらん縁談

上村牛歩

年齢しゅば取つ 料理やてげてげで け済ませつ

(唱) 一度ん煮しめ 温めつ三日

満石うらら

てげてげな 男と女 五十年

(唱) ちゃんと暮れちよい 子孫も沢山

諸木美舟

てげてげじゃ 後で金要い 兎小屋

(唱) 不調法な癖い 我が造作くしつ

藤元鬼瓦

ザアザ漏つ てげてげ造作く 笑る大雨

(唱) 手抜つが多けし 雨め苛さえつ

諸木小春

挨拶どま てげてげ聞ちよつ 盃く握つ

(唱) 喉あからから 話しゃ耳み入らじ

遠矢耐多

何ぬすいも 宿六はてげてげ 済ませちよつ

(唱) そいで世の中 良か態い廻つ

長重リリー

耳ま外方 てげてげ聞ちよい 姑ん小言

(唱) また始まった 耳ぬ塞せじよつ

北村虎王

好つか言て てげてげな返事じ 怒けた彼女

(唱) 彼女ん権幕き 狼狽るた彼

西ノ園ひらり